

フジテックブランド展開の歴史

フジテックグループは、日本の昇降機メーカーの中でいち早く海外進出を果たすとともに、専門メーカーとして培ってきたノウハウを生かして技術開発を推進してきました。海外売上高比率が50%を超えた現在では、各国のランドマークとなる建物への納入実績も着実に増え、“フジテックブランド”の確立を加速させています。

1948~

創業期

いち早く海外へ進出

当社は1948年2月に創業。研究開発からメンテナンス、モダンゼーションまで手掛ける、昇降機の専門メーカーとして歩み始めました。「東京オリンピック」が開催された1964年には、日本の昇降機メーカーとしていち早く香港へ進出。“世界は一つの市場”の思いのもと、世界中の国々に進出し、事業展開を加速しました。

1970~

技術革新期

世界最大の研究塔完成

1975年に高さ150m、当時、世界最高・最大の「エレベータ研究塔」が完成。同研究塔を活用した技術開発を推進しました。翌年には分速600mのエレベータを世界に先駆けて開発したほか、現在のAI技術につながる学習機能を備えた、コンピューター制御による管理システムも構築しました。

1990~

拠点拡大期

東アジアを中心に事業を拡大

1990年代から中国の昇降機市場が拡大。増加する需要に対応するため、1995年に合弁会社「Huasheng Fujitec Elevator Co., Ltd.」を設立し、中国でエレベータの生産を開始しました。その後、上海にエスカレータ工場と研究開発施設を開発。また、韓国の仁川にもエレベータ工場を新設し、東アジアでの事業を拡大しました。

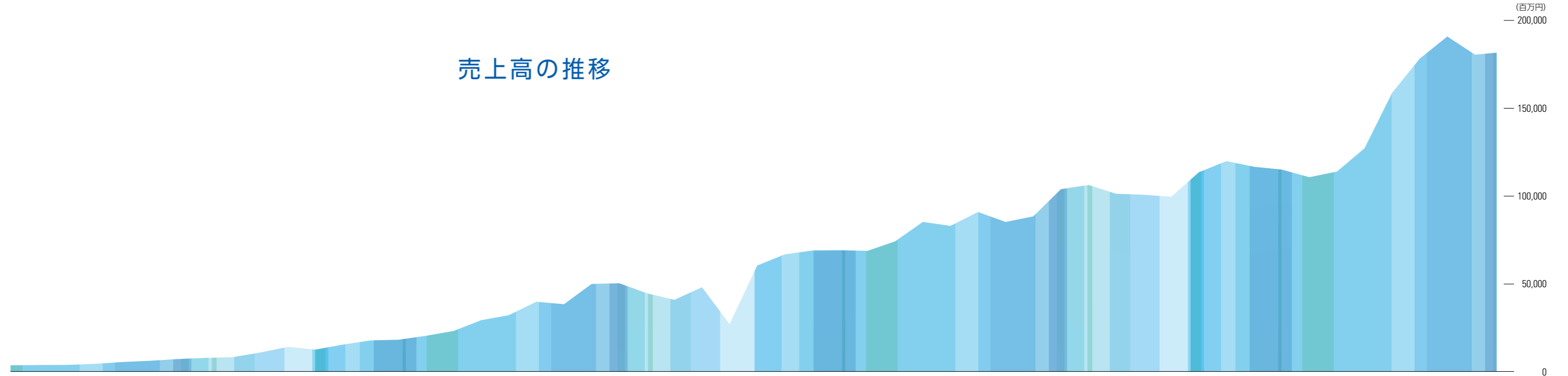
2010~

ブランド成長期

グローバルでブランド展開を加速

積み重ねてきた実績が当社への信頼につながり、近年は各地のランドマークとなる建物に、当社のエレベータを納入しています。日本の「GINZA SIX」、中国の「望京SOHO」、そしてシンガポールの「リゾート・ワールド・セントーサ」などです。今後も、フジテックブランドの浸透と拡大を図ります。

売上高の推移



1964年

香港・シンガポールを皮切りに世界市場を拡大

国内のみならず、世界規模の高層ビルでも通用する卓越した技術力を海外に向けて強くアピール。その結果、国内との設備環境の違いを技術力でカバーしつつ、香港最大の「サンヒンビル」にエレベータ13台を納入。また、シンガポールにおいても当時の業界史上最大の契約を締結し、日本のエレベータの技術力は横並びであるという既成概念を塗り替えました。



1975年

世界最高・最大を誇る地上150mの「エレベータ研究塔」完成

日本とは規模の異なる世界各国の施設、また、乱立する大型施設へのニーズにも対応するため、世界でも類を見ない地上150m規模の「エレベータ研究塔」を建設。その後、40年以上にわたって、世界をリードする数多くの独創的な技術力を生み出す研究開発のシンボルとして稼働し続けてきました。



1995年

世界的激戦区であった中国にて「華昇フジテック」設立

世界でも群を抜いて目覚ましい成長を遂げ、インフラ整備への投資にも活発化が期待された東アジア、特に中国市場に好機を見出し「華昇フジテック」を設立。エレベータ関連会社同士で技術力を高め合うといった従来の発想ではなく、当社の技術力を中国全土にわたるネットワークを通じて提供していくという発想から、総合商社である「中国中紡集团公司」との合併を果たしました。



2017年

東京・銀座のランドマーク「GINZA SIX」にエレベータ納入

東京・銀座の代表的な複合施設である「GINZA SIX」に当社エレベータ38台、エスカレータ46台、計84台を納入。このように、大型施設やオフィスビル、ホテル、マンション、ショッピングセンター、美術館・博物館などに多数納入しています。フジテックは、世界中の常に進化している都市において、未来を見据えた新しい挑戦を続けています。

